しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会　ニュースレター

第 169 号（2024 年 3 月号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

今月、三男が卒園します。長女が入園してから 10 年。途切れることなく、4 人の子どもたちを暑い日も、寒い日も、風の強い日も、自転車で送迎してきました。しりとりをしたり、たわいもない話しをしながらの 20 分は、私の大切な思い出。また、わが子以外にも何十人の子どもたちの成長を見ることができて、とても幸せでした。次は 2 年後になります。それまで体力を維持して、次女の送迎に備えます。

今月、31 日(日)はイースター召天者記念礼拝となっています。礼拝後には持ち寄りパーティーが持たれます。心からお待ちしています！

今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。　(2024.03.01)

共感の幅を広げる

学生時代、横須賀から電車で 2 時間かけて大学に通っていました。山手線などは 2, 3 分に一本電車が来るのに、一本でも早い電車に乗ろうと飛び乗っていたのです。今でも東京に行くと、その時のクセが抜けず、構内を足早に歩いて一本でも早い電車に乗ろうとしています。ところが 20 数年前と明らかに違うのは、人の波を上手くかき分けながら進めなくなったことです。高松では、人の波が押し寄せ、ぶつかりそうになることはほとんどないので、感覚が鈍ってしまったようです。

また都会のスピードに比べると、高松は少しゆっくりしているような気がします。だから急がず生活できているかというと、そういうわけではないのです。信号になるべくつかまらないように、信号のない裏道を通り、早く目的地に着こうとすることがあります。またスーパーではレジの待ち時間を短縮するため、なるべく人が並んでいないレーンを選んでいます。ところが前の人が手間取って、混んでいたレジの方が早く進むことがあるのです。そんなときは、「あっちに並んでおけば良かった」と後悔します。

別に一分一秒を争うような生活を強いられているわけではないのです。裏道を行っても、一番混んでいるレジに並んでも、せいぜい 2-3 分の差でしょう。けれど、ついつい急いでしまうのです。このように“早く”“効率よく”だけを考えていると、どんどん余裕がなくなっていきます。そして周りの人に対して、不寛容になるのです。

先日、新聞に作家で精神科医の帚木蓬生さんが「答えを急がない力」という特集で、早く正確な答えを出すことを追い求めることは、不寛容を生み出すとして「ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力）」が大切だとインタビューに答えておられたのです。

（ネガティブ・ケイパビリティとは）「答えの出ない事態に耐える力」のことです。世の中は明確な答えのある問題ばかりではありません。むしろ人間社会は、解決できない問題の方が何倍も多いではないですか。先が見えず、どうしようもない不安に耐えながら、熟慮する。答えが出なくても問題に挑み続ける力こそ、ネガティブ・ケイパビリティです。

これに対し、正の能力、ポジティブ・ケイパビリティは、答えをみつける問題解決能力をさします。学校教育もそうですよね。テレビでクイズ番組を見ても、記憶した答えを素早くはき出すことを競います。でも、多角的、長期的な視野でものを考えることも大事です。早く答えを出すと見落とすものがあるからです。

今ここに、理解できないものが出てきたとします。ヒトの脳はわからない状態に耐えられず、すぐにそれが何かを決めつけて、理解したつもりになろうとします。ノウハウ、マニュアル、ハウツーものが歓迎されるのは、悩まなくてすむからです。だけど、そこに落とし穴がある。深い問題が浮かび上がらず、浅薄な理解にとどまってしまうのです。

【朝日新聞 2024.1.3「解なき今を照らすために」より】

家族の問題や様々な課題が出て来ると、私はすぐに答えを出そうとします。なるべく早く解決しようと、「これはこうだ」と決めつけて、あれこれうるさく指図してしまうのです。それでも思い通りにならないとイライラします。これこそ「負の能力」の欠如。一緒に「負」に取り組まず、「負」を受けとめられません。結局、「負」から逃げているだけなので、何の解決にもならず、本当の問題が見えてこない。いや、見ようとしていない。このことで何度 失敗したことでしょう。

帚木さんはウソをついたり、カネを盗んだりする患者さんを「極悪人だ」と決めつけないそうです。「あなたの話にも理があるね」と受けとめる。そして「不思議だな、どうしてこういう行動をとるんだろう」と思いながら理解を深め、共感の幅を広げていくと、患者さんが少しずつ変わっていくとのこと。

決めつけず、無理やり変えようとせず、相手を理解する努力を惜しまない。これこそ「負の能力」ですね。

でもコスパ、タイパが良しとされる時代にあって、これを実践するのは難しそうな気がします。私の場合、裏道をやめ、一番長い列に並ぶことから始めた方が良さそうです。そうしたら少し余裕が生まれるでしょうか。また世の中にも、自分のうちにも理解できず、すぐに解決できないことがたくさんあると忘れない。それが大切だと教えられたのです。私は以前、自分のことは自分が一番よく知っているし、自分のことは、自分でコントロールできると思っていました。

けれど、あるとき自分でも思ってもみなかった悪が、自分の内にあることに気づかされたのです。その悪を一生懸命消そうとしましたが、逆にどんどん心の奥深くから悪が湧いてきて、どうすることもできませんでした。私は早く、その状況から抜け出したくて、努力しましたが自分の力では無理だったのです。

そんな自分の無力さ・悪に直面したとき、私はイエス様が今から約2000 年前に十字架にかかって死んでくださったのは、私の醜い、汚い悪のためだったのだとはっきり受け入れることができました。しかもイエス様は十字架で死なれただけでなく、三日目によみがえられました。このようにイエス様が死に勝利され、よみがえられたことをお祝いするのがイースターですね。

またイエス様は今も生きておられます。そして私たちの弱さに常に同情し、様々な課題にぶつかる私たちを見捨てず、共感し、祈ってくださるのです。ですから私たちも少しずつ人々の「負」に理解を深め、共感の幅を広げていくことができたらと願います。

キリストは、眠った者の初穂として
死者の中からよみがえられました。

- 礼　　拝　　毎週日曜日 10：30～12：00
- 祈 祷 会　　毎週金曜日 10：30～12：00
- イズミン・キッズ　毎週日曜日　9：30～10：20
- おやこ de えほん　毎週水曜日 10：30～13：30
- Friendly English　毎週木曜日 9：30～11：50（大人向け）